

神田小の誇りは「明るい笑顔」と「元気なあいさつ」：すべては神田の子の「希望をはぐくむために」



学校だより

No. 6 さいたま市立神田小学校

令和5年 10月 2日発行 TEL (853) 4377
URL: <http://jinde-e.saitama-city.ed.jp/>

学校教育目標

○人間性豊かで 21世紀を
たくましく生きる神田の子
・かしこく・たくましく・あたたかく

想いを寄せる

校長 米玉利 優子

「サイン バイノー」「K君、今、なんて言ったの?」「モンゴル語で こんにちはと言いました。」廊下ですれ違った5年男児が、少し照れくさそうに笑いました。「もし、自分が言葉も話せない異国で、1人で学校に行くとしたら、どんな気持ちになるかな。」モンゴルからの転入生を迎える前日、5年担任が子どもたちに語りかけていました。K君の隣のクラスに来た転入生。自分だったら…と考えた5年生の皆が、日本語がまだわからない転入生を力強く応援している、皆のあたたかい笑顔が見えるような気がして、彼の後ろ姿がいつもより大きく逞しく見えました。

「発音が少し違うと意味が変わってしまうね。」「それ、下手すぎじゃない?」ポケットを片手にモンゴル語の練習をして笑い合う職員室。あたたかい教職員の姿を誇らしく見つめていると、ある保護者の方が通学班のこと等をモンゴル語で書いて届けてくださったという話が耳に入ってきました。同じ通学班の子どもたちもモンゴル語でのあいさつを練習しているというのです。嬉しさと同時に、どうしてもお礼が伝えたくなり、保護者の方に電話をすると「正しいモンゴル語なのかはわかりませんが、通学班の子どもたちも、モンゴル語でのあいさつを練習してくれているのは嬉しいですね…」そう明るく話してくださいました。その声を聴きながら確信したことは、国際理解、国際交流などという美しい響きの言葉が大切なのではないということです。相手の立場に立って考える、自分ならばどうかと想いを寄せる、そして、何かできないかと考えて動く…真の交流はこのとき、この場に生まれているのだと痛感しました。相手に想いを寄せる。簡単なようで難しいことを、保護者の方も子どもたちも自然と行っていることに胸が熱くなりました。

校外学習に出かけている学年のそうじ場所を進んできれいにしてくれる6年生。トイレの改修工事をして下さっている方々に、いつもありがとうございますと声をかけるだけでなく、画用紙にお礼のメッセージを書いた掲示物を作成し、手渡しに行った6年生。校外学習の帰りに、折り紙で作ったかわいいメダルに、今日1日ありがとうございますと書いて、バスの運転手さんに手渡した4年生。工事に関わる方もバスの運転手さんも最高の笑顔を見せてくれたことは、言うまでもありません。あたたかい心をもつ子どもたち。学校は、この素晴らしい子どもたちの成長の手助けができる場であり続けなければならないと強く思います。そして常に、範を示すのは、私たち大人であることを肝に銘じて精進したいと思います。

10月28日(土)に開催される神田小学校オータムフェスタに向けて、様々な準備等をして下さっているPTA会長様をはじめ、PTA本部の方、多くの方に心から感謝を申し上げます。

保護者の皆様、並びに地域の皆様には、今月も子どもたちに想いを寄せ、あたたかい御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。